

本縣統計協會總會

豫算案其他原案可決

三月二十二日に開催

縣統計協會昭和十二年度總會は三月二十三日午前十一時より茨城會館内縣教育會議室に於て開催された、之より先評議員會を開催總會に提出する
△昭和十三年度歳入歳出豫算△昭和十三年度市町村負擔金分賦方法△昭和十三年度事業計畫書△昭和十一年度歳入歳出決算

の各案につき慎重審議の結果之を決定直に總會に移つた、出席者は

今松會長、川崎副會長、粉川幸之介(東茨城郡)大内義比(那珂郡)宮田厚(多賀郡)酒井守衛(鹿島郡)小貫三郎(行方郡)鴻巣清(稻敷郡)片山寛一(筑波郡)澤邊元信(眞壁郡)遠藤弘(猿島郡)以上各郡支部

の發行部數四千五百部に及ぶ。
一、縣勢要覽等の出版及諸用紙の印刷縣編纂に係る昭和十二年刊行縣勢要覽の頒布方に就き縣の承認を経て六百部を増刷し學校其の他の頒布希望者に向け有償にて配付する外昭和十三年所要の統計報告用紙、統計調査員手簿其の他統計調査諸用紙を印刷して孰れも有償にて配付したり。

一、統計事務視察員の派遣

千葉縣下に於ける優良町村君津郡根形村安房郡主基村を選定し六月八日、九日の二日間左記の者を選抜視察せしめ豫期の効果を收得し歸會後報告書を提出したり。

東茨城郡上中妻村書記 藤地 伴介
西茨城郡笠間町書記 成田丑之助
那珂郡野口村書記 西村勝太郎
那珂郡金砂村書記 會澤 孝
久慈郡坂上村書記 田村 實
多賀郡高松村書記 木瀧徳三郎
鹿島郡高松村書記 木瀧徳三郎
行方郡八代村書記 鬼澤長四郎
飯塚郡安中村書記 飯塚新之助

十二年度庶務報告

長、清水廣之介(那珂郡)佐川忠(久慈郡)箕輪喜平(行方郡)(以上評議員)成瀬常吉 高島萬藏(以上幹事)
で今松會長議長席につき川崎副會長より提案の説明をなし議案第一號より議案第三號迄及議案第四號を議題に供し異議なく原案を可決總會を終る。議決された十三年度豫算其の他の議案内容は左の如くである。

一、茨城統計の刊行

機關雜誌茨城統計は昭和十年一月創刊號刊行以來第四卷第十九號に及び毎回の會員は勿論其の他購讀者に配本し其の一回

新治郡牛渡村書記 稻生 高吉
筑波郡眞瀨村書記 宇都野竹雄
眞壁郡大實村書記 横瀨 定平
結城郡水海道町書記 小島久一郎
猿島郡神大實村書記 羽富 好
北相馬郡菅生村書記 大瀧 寅直

一、内閣統計講習會受講生の派遣

自七月十九日至八月七日内閣統計局に於て内閣統計講習會開催に付聽講生として左記四名を選衡の上派遣することに決定せるも内橋本信雄、戸頃晋の兩名は参加せず他の二名のみ出席講習證書を受領せり。

那珂郡小瀨村書記 橋本 信雄
稻敷郡柴崎村書記 油原 眞
筑波郡小野川村書記 成島 一男
眞壁郡古里村書記 戸頃 晋

一、統計思想普及

統計思想の普及徹底を圖る爲縣より活動映寫機の貸付を受け本會に於てフィルム其の他之が附屬物を購入し映畫會並講話會を開催したり。開催町村左の如し
△東茨城郡渡里、飯富△西茨城郡北川根△那珂郡、國田△久慈郡生瀨、袋田△

多賀郡關南、關本△鹿島郡波野、豊郷△行方郡現原、大生原△稻敷郡沼里、源清田△新治郡上天津、下天津△筑波郡福岡△眞壁郡黒子、小栗△結城郡上山川、飯沼△猿島郡生子菅、猿島、岩井△北相馬郡相馬、井野

一、統計事務の實地指導

統計調査の適正と單位觀察の正確を期する目的を以て縣と相呼應し調査員會、研究会に職員を派遣し實地指導に努めたり本期に於ける指導箇所六十七ヶ町村なり

一、統計事務成績者の表彰

統計調査に關し特に成績顯著なる者を統計協會支部長の推薦に依り表彰することに決定去る二月十一日の佳節に發表し統計協會支部總會の際傳達す。表彰人員は町村書記八名、統計調査員二十名計二十八名なり。(氏名略す)

一、郡支部助成交付金の交付

統計協會郡支部助成交付金を昭和十二年度より交付することとなりたるも本會の財政上餘裕なき爲當分會議費として町村數に按分して若干宛を郡支部に交付せり

一、統計調査員死亡者に弔慰料の交付
統計調査員にして在職中死亡せる者に對し弔詞と共に若干の弔慰金を贈呈することを昭和十二年度より實施することとせり其の人員十二名に達す。

一、總裁の更迭

本會總裁林信夫氏は昭和十三年一月十一日厚生省衛生局長に榮轉せられたるに付會則第七條に依り挾間茂氏總裁となりたり。

一、顧問の異動

解 嚙
警察部長 生悦住求馬氏
警察部長 沖野 悟氏
縣會議長 石川 市郎氏
庶務課長 岡田 光藏氏
農林課長 坂本 宗武氏
推 薦
警察部長 沖野 悟氏

警察部長 宮内 笑内氏
 縣會議長 宮原 庄助氏
 庶務課長 大熊 貞邦氏
 農林課長 小田島助吉氏

一、幹事異動

本會幹事小林綠氏退職に付左記の者を囑託したり

會務委員 渡邊 健吉氏

一、幹事死亡

本會幹事渡邊健吉氏は昭和十二年十二月六日死亡せり。

一、會務委員囑託

左記の者を會務委員に囑託したり

松井 桐 紫氏

十三年度協會豫算

歳入	歳入豫算高
歳出	歳出豫算高
金七千九百四十一圓	金七千九百四十一圓

科 目	本年度 豫算額	前年度 豫算額	比(△印)
第一款會費	一,四八〇.〇〇	一,四三〇.〇〇	△五〇.〇〇
第一項會費	一,四八〇.〇〇	一,四三〇.〇〇	△五〇.〇〇
第二項分賦金	一,四八〇.〇〇	一,四三〇.〇〇	△五〇.〇〇
第二款補助金	一,〇〇〇.〇〇	一,〇〇〇.〇〇	〇.〇〇
第一項補助金	一,〇〇〇.〇〇	一,〇〇〇.〇〇	〇.〇〇
第三款繰越金	一,〇〇〇.〇〇	一,〇〇〇.〇〇	〇.〇〇
第一項繰越金	一,〇〇〇.〇〇	一,〇〇〇.〇〇	〇.〇〇
第四款預金利息	九〇〇.〇〇	九〇〇.〇〇	〇.〇〇
第一項預金利息	九〇〇.〇〇	九〇〇.〇〇	〇.〇〇
第五款出版金	九〇〇.〇〇	九〇〇.〇〇	〇.〇〇
第一項出版金	九〇〇.〇〇	九〇〇.〇〇	〇.〇〇
第六款雜收入	三〇〇.〇〇	三〇〇.〇〇	〇.〇〇
第一項雜收入	三〇〇.〇〇	三〇〇.〇〇	〇.〇〇
第七款寄附金	一,〇〇〇.〇〇	一,〇〇〇.〇〇	〇.〇〇
第一項寄附金	一,〇〇〇.〇〇	一,〇〇〇.〇〇	〇.〇〇
合計	七,九四一.〇〇	七,九四一.〇〇	〇.〇〇

科 目	本年度 豫算額	前年度 豫算額	比(△印)
第一款事務費	一,三〇〇.〇〇	一,三〇〇.〇〇	〇.〇〇
第一項諸給	一,三〇〇.〇〇	一,三〇〇.〇〇	〇.〇〇
第二項手當	一〇〇.〇〇	一〇〇.〇〇	〇.〇〇
第二項旅費	一〇〇.〇〇	一〇〇.〇〇	〇.〇〇
第三項諸備給	一〇〇.〇〇	一〇〇.〇〇	〇.〇〇
第四項賞與	五〇〇.〇〇	五〇〇.〇〇	〇.〇〇
第二項需用費	八〇〇.〇〇	八〇〇.〇〇	〇.〇〇
第一項備品費	三〇〇.〇〇	三〇〇.〇〇	〇.〇〇
第二項通信	三〇〇.〇〇	三〇〇.〇〇	〇.〇〇
第三項運搬費	二〇〇.〇〇	二〇〇.〇〇	〇.〇〇
第四項圖書及印刷費	一〇〇.〇〇	一〇〇.〇〇	〇.〇〇
第五項雜費	五〇〇.〇〇	五〇〇.〇〇	〇.〇〇
第一款會議費	一五〇.〇〇	一五〇.〇〇	〇.〇〇
第一項會議費	一五〇.〇〇	一五〇.〇〇	〇.〇〇
第二項總會費	一〇〇.〇〇	一〇〇.〇〇	〇.〇〇
第三款事業費	五,四四一.〇〇	五,四四一.〇〇	〇.〇〇

十三年度協會々費分賦方法

昭和十二年十月一日現在を以て縣に於て調査したる現住戸數に依り五階級に區別分賦するものにして五月末日迄に本會に納付するものとす。

現在戸數	市町村名	分賦金
一萬以上	水戸市	金拾圓
三千以上	湊町、助川町、日立町、石岡町、土浦町、古河町、計六ヶ町	金六圓
二千以上	磯濱町、笠間町、高萩町、磯原町、下館町、結城町、計六ヶ町	金五圓
五百以上	(二百五十四ヶ町)	金四圓
五百未満	百十二ヶ町村	金參圓
	三百七十九ヶ町村	一、四三六
△戸數五百以上		
△東茨城	上大野、下大野、稻荷、酒門、石崎、吉田、線岡、河和田、長岡、上野合、白河、橋、小川、竹原、堅倉、川根、鯉淵、下中妻、渡里、飯富、石塚、西郷、岩船、澤山、大貫計二五	

△西茨城

宍戸、岩間、南川根、大原、大池田、七會、北山内、南山内、西山内、東那珂、北那珂、岩瀬計一二

△那珂

平磯、前渡、中野、勝田、川田、佐野、村松、石神、神崎、額田、菅谷、五臺、國田、磯郷、戸多、芳野、木崎、瓜連、靜、大場、上野、大宮、大賀、玉川、山方、檜澤、小瀬、野口長倉、八里計三〇

△久慈

機初、世矢、幸久、佐竹、郡戸、久米、金郷、世喜、金沙、天下野、染和田、山田、譽田、河内、中里、賀美、小里、生瀬、宮川、黒澤、依上、佐原、大子、袋田、上小川、下小川、諸富野、太田、久慈計二九

△多賀

坂上、岡分、河原子、鮎川、豊浦、櫛形、松岡、高岡、南中郷、日高、華川、關南、大津、平潟、關本計一五

△鹿島

夏海、大谷、沼前、巴、徳信、諏訪、銚田、新宮、上島、白鳥、大同中野、鹿島、高松、息栖、輕野、若松、矢田部、波崎計一九

△行方

麻生、香澄、潮來、大和、津

澄、武田、秋津、立花、玉造、延方計一〇

△稻 數 江戸崎、安中、木原、君原、阿見、朝日、奥野、岡田、莖崎、牛久馴柴、八原、柴崎、阿波、古渡、龍ヶ崎、大宮、生板、金江津計一九

△新治 眞鍋、上天津、佐賀、安節、志士庫、高濱、田余、園部、戀瀬、葉穂、柿岡、小幡、小櫻、七會、都和、藤澤、榮、九重、東計一九

△筑波 谷田部、久賀、眞瀬、島名、旭、上郷、吉沼、筑波、北條、小田、大穂、小野川計二二

△眞壁 養蠶、河間、五所、伊讚、大田、關本、上妻、川西、下妻、大寶、黒子、嘉田生崎、村田、上野、大、長謙、古里、紫尾、樺穂、雨引、眞壁、大國、新治、小栗計二四

△結城 絹川、江川、山川、中結城、名崎、安静、菅原、下結城、豊岡、西豊田、宗道、石下、三妻、飯沼、水海道計一五

△猿島 新郷、勝鹿、岡郷、櫻井、香取、五霞、長田、八俣、幸島、猿島、

森戸、生子菅、逆井山、七重、杏掛、神大賀、岩井、七郷、中川、鏡、長須計二一

△北相馬 菅生、守谷、取手、相馬計四戸數五百未滿

△東茨城 大場、上中妻、中妻、山根、小松、伊勢畑、坪計七

△西茨城 北川根計一

△那珂 柳河、鹽田計二

△久慈 坂本、東小澤、西小澤、高倉佐都計五

△多賀 黒前計一

△鹿島 波野、豊郷、豊津計三

△行方 八代、津知、大生原、太田、要、現原、玉川、行方、小高、手賀計一〇

△稻 數 君賀、沼里、鳩崎、舟島、長戸、根本、太田、高田、伊崎、大須賀、浮島、長竿、源清田、十余島、本新島計一五

△新治 下大津、美並、牛渡、關川、玉川、瓦會、林、志筑、新治、斗利出山ノ莊、栗原、三計一三

△筑波 小張、板橋、三島、谷井田、

豊、鹿島、長崎、十和、福岡、作岡、田水山、菅間、田井、葛城、高道祖計一五

△眞壁 谷貝、鳥羽、騰波ノ江、河内中、竹島計六

△結城 上山川、大形、岡田、大花羽總上、豊加美、蠶飼、玉、豊田、五箇大生計一一

△猿島 静、弓馬田、飯島計三

△北相馬 坂手、内守谷、小絹、大井澤大野、高野、高井、稻戸井、山王、寺原、井野、小文間、六郷、高須、川原代、北文間、文、布川、文間、東文間計二〇

十三年度事業計畫

一、會報の發行

本年度に於ても機關雜誌茨城統計を隔月に發刊し統計主任及統計調査員をして閱讀せしめ事務の刷新改善に寄與せしむると共に其他希望の向の購讀に應じ統計思想の普及に努めんとす。

二、統計事務の實地指導

統計事務の向上を圖らんが爲市町村に於

ける統計調査員會、研究会、協議會等開催の際職員を派遣し實際的指導を行はんとす。

一、統計思想普及映畫會

統計事務不振の町村より順次輪番に各郡毎に統計思想映畫會を開催し其の向上發展を期せんとするものなり。然して右輪番を待たず開催希望の町村に對しては所要費を負担するもの限り開催するものとす。

一、統計功勞者の表彰

本會表彰規程に基き成績優良なる吏員並統計調査員を選衡し表彰を行はんとす。

一、内閣統計講習會講習生の派遣

統計職員向上の目的を以て内閣統計局に於て開催せらるる統計講習會に本會より補助金を交付して町村吏員を派遣せんとす。

一、統計事務優良町村視察員の派遣

統計事務優良町村を視察し以て自村の事務に比較し採長補短の實を擧げしむるは事務の向上を圖る上に於て最も緊要なるを以て本年度に於ても本會より補助金を交

付し統計事務視察員を派遣せんとす。

一、郡支部事業に對する補助

本會郡支部の發展助長を期せんが爲其の費用の一部として使用せしむることとし少額ながら之が交付金を本年度に於ても計上せり。

一、圖書、諸用紙の出版印刷

一、縣編纂に係る縣勢要覽を増刷し希望の向へ有償にて頒布せんとす。

2、統計報告用紙其の他の印刷

統計報告用紙及其の他の調査諸用紙、統計調査員手簿を印刷の上有償にて希望の向へ配付せんとす。

一、統計調査員に弔慰金贈呈

統計調査員にして在職中死亡せるものに少額ながら本會より弔慰金を贈呈することとせり。

十一年度協會決算

Table with 2 columns: 歳入 (Income) and 歳出 (Expenditure). Total income is 1,809,949.60 and total expenditure is 1,809,949.60.

一、金六千五百拾壹圓九拾貳錢 歳入 歳出差引殘高 歳出決算高

一、金壹千六百八拾七圓七拾壹錢 翌年度へ繰越

Table with 4 columns: 科目 (Category), 本年度 (This Year), 本年度 (This Year), 本年度 (This Year). Lists various financial items like 第一會費, 第一補助金, etc.

第一項出版物	四、六九二・九三・九三・〇〇	七、七〇・九
第一目出版物	四、六九二・九三・九三・〇〇	七、七〇・九
第六款雜收入	六、九七・七	三、九七・六
第一項雜收入	六、九七・七	三、九七・六
第一目過年度	一、〇〇・〇〇	六、〇〇・〇
第二目廣告料	五、八八・六	三、八八・六
第七款寄附金	五、〇〇・〇	四、〇〇・〇
第一項寄附金	五、〇〇・〇	四、〇〇・〇
第一目寄附金	五、〇〇・〇	四、〇〇・〇
歳入合計	八、九六三・六三三・〇〇	六、七三三・三
▲歳出		
科	本年度	本年度
第一項事務	一、五三三・〇〇	一、五三三・〇〇
第一項諸給	四、五七五	六、〇〇〇・〇〇
第一目手當	二、四〇〇・〇〇	一、九七五・五
第二目旅費	九七五	一、〇〇〇・〇〇
第三目諸備給	一七〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
第四目賞與	一〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
第二項需用費	五、六五五	七、〇〇〇・〇〇
第一目通信費	一五〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
第二目通信運搬費	九八〇・〇〇	五、三三〇・〇〇
第三目消耗品費	七五五	一、〇〇〇・〇〇
第四目圖書及印刷費	二六〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇

第五目雜費	六・七〇	四・〇〇	四・九〇
第二項會議費	二五・七	三〇・〇〇	三三・三
第一項會議費	二五・七	三〇・〇〇	三三・三
第一目評議員會費	三三・〇	三〇・〇〇	三三・三
第二目總會費	六・七	一〇・〇〇	九・四三
第三項事業費	四、七〇〇・〇〇	四、七五〇・〇〇	二・七
第一項事業費	四、七〇〇・〇〇	四、七五〇・〇〇	二・七
第二項雜誌費	八七五・元	一、八〇〇・〇〇	五・元
第二目出版費	一、八〇〇・〇〇	二、四〇〇・〇〇	六・六
第三目統計思想普及費	四六・四〇	五〇〇・〇〇	三・六
第四目表彰費	六・四〇	一三三・〇〇	三・六
第五目實地指導費	一四・三三	一五〇・〇〇	六・六
第四項補助費	二〇・〇〇	三三〇・〇〇	二〇・〇
第一項補助費	二〇・〇〇	三三〇・〇〇	二〇・〇
統計講習	二〇・〇〇	三三〇・〇〇	二〇・〇
第一目會派遣補助費	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇
第二項視察補助費	一三〇・〇〇	一五〇・〇〇	二〇・〇
第五項積立金	三三・〇〇	三三・〇〇	一六・〇
第一項統計大會積立金	三三・〇〇	三三・〇〇	一六・〇
第一目統計大會積立金	三三・〇〇	三三・〇〇	一六・〇
第六項過年度支出	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
第一項過年度支出	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
第七項豫備費	三三三・〇〇	三三三・〇〇	一・〇〇

第一項豫備費 一三三・〇〇△一・〇〇
 第一目豫備費 一三三・〇〇△一・〇〇
 歳出合計 六、五二九・六三三・〇〇

統計大會積立金現在高
 (昭和十三年二月末日現在)
 一金壹千七百七圓拾參錢
 內 譯
 金壹千七百七圓七拾九錢
 昭和十二年二月末日現在
 金五百六拾貳圓五拾七錢
 昭和十二年度積立金(前年度繰越金) 三分ノ一額
 金參拾六圓七拾七錢
 昭和十二年度預金(常陽銀行) 金壹千貳百圓
 定期預金(常陽銀行) 昭和十二年十月二十九日預金 金五百圓
 定期預金(農工銀行) 昭和十二年六月二十九日預金 金七圓拾參錢
 特別當座預金(常陽銀行)

統計相談所

統計に關し疑問なり又は不明な点がありましたら、御問合せ下さい。誌上にて町噂にお答へ致します。

(問) 米生産統計調査區表中見積一反歩收穫高表の上中下の石數計上は調査區結果表より算出せしものを記入するものなるや、將た坪刈成績により得たる石數を記入するものなるや何れを正當と認むるや

(答) 見積一反歩收穫高の上中下は坪刈成績表を參考として農會役員及精農家等の意見を徵し其調査區内に於て最も適當と認めらるゝ數量を記入せられたし。

(問) 各市町村別世帯及人口は本誌に掲載あるも耕地反別に至つては掲載あるを見當らず、參考の爲に御伺します。

(答) 人口統計は各市町村の利用が他に比較して非常に多き爲市町村別に掲載しましたが耕地反別調査の頃は各種統計の掲載するものが比較的多く頁數の關係等も

ある爲都市別に止めたのです。

統計調査員異動

昭和三十二年三月十日	鹿島郡波崎町	野中 光次	(田向 義勝)
昭和三十二年三月二十八日	猿島郡靜村	關 一 郎	(篠塚 三郎)
		金久保 喜一	(金久保 民藏)
		金久保 嘉市	(金久保 弘)
		櫻井 長左衛門	(櫻井 幸七)
昭和三十二年三月八日	久慈郡河内村	石川 年 男	(田所 常雄)
		根本 八 郎	(榎山 敬三郎)
		深澤 源太郎	(菊池 幸藏)
			(丙午 郎)

昭和三十二年二月十七日	久慈郡中里村	會澤 德 一	(會澤 良雄)
		綿引 壽	(鈴木 清明)
		大部 宗一郎	(綿引 壽)
全 三月二十五日	猿島郡七郷村	南 俊 夫	(南 政治)
全 三月二十四日	猿島郡八俣村	染谷 藤三郎	(鈴木 憲一郎)
全 三月三十一日	鹿島郡輕野村	沼田 伊 平	(沼田 彦太郎)
		沼田 松太郎	(岩井 勇治)
		山本 信之助	(池田 三太郎)
		石津 廣之助	(長島 安藏)
		野口 弘	(増 員)
全 四月一日	猿島郡香取村	保立 總 平	(〃)
全 三月三十日	久慈郡嘉久村	永塚 豊太郎	(齋藤 嘉一)
		落谷 徳之進	(萩谷 富一郎)
		大地 正 一	(青山 清次郎)
		堀口 喜久男	(堀口 千吉)
		宇野 清光	(宇野 誠)
全 四月三日		宮本 茂	(伊藤 運)

統計主任異動

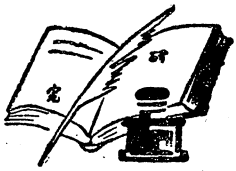
(上ノ新任括弧内ハ舊)

- 全 昭和十三年三月二十八日 猿島郡靜村
- 大賀 竹治 (五月女秋三郎)
- 全 三月二十三日 久慈郡佐都村
- 渡邊 次雄 (渡邊一郎)
- 全 三月二十五日 猿島郡七郷村
- 南 政治 (茂呂忠勝)
- 全 三月二十四日 猿島郡八俣村
- 田邊 義亮 (高伊七郎)
- 全 三月三十一日 鹿島郡輕野村
- 保立 松太郎 (山本政信)
- 全 四月一日 猿島郡香取村
- 宇都木 柳太郎 (青木彦之助)
- 全 三月三十一日 那珂郡前渡村
- 澤島 康 (黒澤關之介)
- 全 三月二十六日 那珂郡淺郷村
- 青木 金之介 (飯田明春)
- 小室 政雄 (全人) 人口統計
- 葛西 信雄 (全人) 學事
- 全 三月二十七日 那珂郡野口村
- 皆川 善次郎 (西村勝太郎)

- 全 三月三十一日 稻敷郡江戸崎町
- 鈴木 國書 (桑島正二)
- 全 四月四日 稻敷郡君原村
- 大竹 順直 (増員)
- 薄田 文一 (〃)
- 渡邊 丈夫 (〃)
- 全 三月三十一日 那珂郡山方村
- 鈴木 竹之介 (増員)
- 全 三月三十一日 那珂郡鹽田村
- 柴田 誠次 (小林文彌)
- 全 三月三十日 稻敷郡阿波村
- 津本 三郎 (津本理一)
- 全 四月五日 猿島郡七重村
- 倉持 作次 (眞中秋一郎)
- 全 四月五日 猿島郡香取村
- 木村 文一郎 (木村庄四郎)
- 全 四月八日 猿島郡香取村
- 松澤五郎右衛門 (齋藤嘉市)
- 全 四月十一日 那珂郡木崎村
- 中井川 亨 (中井川寅悦)
- 全 四月十一日 那珂郡檜澤村
- 小室 一郎 (小室廣)
- 全 四月八日 稻敷郡鳩崎村
- 油原 源助 (山口彌一)

- 全 四月八日 眞壁郡雨引村
- 成田 房之輔 (成田留吉)
- 全 四月七日 筑波郡葛城村
- 富田 藤三郎 (大久保集)
- 全 四月十四日 西茨城郡岩瀬町
- 小林 正夫 (藤田廣益)
- 高橋 光一郎 (榎戸源壽)
- 全 四月十五日 東茨城郡大場村
- 岩崎 嘉通 (郡司嘉重)
- 全 四月十三日 久慈郡賀美村
- 佐川 章 (助川萬司)
- 小笠原 清太郎 (北野新一郎)
- 石川 秀雄 (石川重太郎)
- 豊田 廣喜 (吉成喜一郎)
- 全 四月二十三日 新治郡佐賀村
- 中村 武 (館林楯之助)
- 阿部 徳右衛門 (楢見竹次郎)
- 坂部 東 (市村竹之丞)
- 全 四月十五日 鹿島郡上島村
- 高野 弘 (菅谷茂)
- 菅谷 安雄 (増區)

各地統計雜信



調査員諸君何なりと奮つて御通信願ひます

月以來勤務の餘暇を利用して得た益金と統計調査員として支給された手当とを合せ金參拾圓を巽に國防費に献金したが今回陸軍大臣より感謝状を送られた。

行方郡支部總會

行方郡支部では四月十日同十一日の兩日に亘り八代村小學校で總會を開催第一日は午前十一時開會、縣より川崎統計課長、小倉屬臨席、紀元節に表彰された八代村統計調査員茂木市郎、小高村同宮内宮太爾氏に對する表彰状の

多賀郡支部總會

四月十三日多賀郡支部總會を豊浦町役場に開催、午前十一時開會瀧北部研究會長支部長代理として開會を宣し、直に紀元節に縣統計協會總裁より表彰された關南村書記中軍常雄氏、豊浦町農林商工統計調査員小野政重氏の表彰

美並村調査員的美舉

新治郡美並村統計調査員左記十一名は過般土浦憲兵分隊に恤兵寄附金として十一圓、同村軍人後援會に應召軍人家族援護費として二十二圓を寄附申出で村民を感激させた。

- 藤井武夫、山口由太郎、小泉義男、齋藤簡、寺神戸清、中村時之助、小野透、中田憲亮、小島千代吉、羽成孝一郎、飯塚徳重

統計主任の國防獻金

新治郡栗原村書記大沼又吉氏は昨年八

狀傳達式を舉行、臨席した川崎統計課長より兩氏に夫々表彰狀並に記念品を授與し式辭ありて後中軍氏答辭を述べ嚴肅裡に式を閉ぢ、引續き研究会に移り南中郷村提出事項に就き研究協議を遂げ縣提出の議案に就き虎口屬詳細説明をなした。

稻敷郡支部總會

稻敷郡支部總會は四月十五日龍ヶ崎町公會堂に開催、縣より虎口、池田兩屬臨席、曩に紀元節に當り協會總裁より表彰せられた牛久村農林商工統計調査員杉浦喜義、長竿村農林商工統計調査員雜賀正治兩氏に對する表彰狀傳達式を舉行し、虎口屬之を傳達して式辭を述べ鴻真支部長の祝辭、受賞者總代調査員雜賀正治氏の答辭ありて閉式し縣提出議案に付虎口、池田兩屬より説明あつて閉會した。

新治郡支部總會

新治郡支部總會は四月二十一日午前

十時半より土浦町公會堂に開催、縣統計課より高島屬出席、先づ紀元節に表彰された統計功勞者の表彰狀傳達式を舉行、村山町村長會幹事の開會の辭に次ぎ高島屬より安飾村雇小室隆之助氏に對し表彰狀並に記念品を授與し式辭朗讀あり、受賞者の答辭あつて表彰式を閉ぢ引續き研究会に移り縣提出の會議事項に付き高島屬より詳細説明あり終了した。

筑波郡支部總會

筑波郡支部總會は四月二十二日午前十時半から筑波郡谷田部町自治會館樓上に開催、縣統計課から虎口屬、松井統計主事補臨席、先づ紀元節に表彰された統計功勞者の表彰傳達式を舉行、松井統計主事補の開會の辭に次ぎ虎口屬から

葛城村書記中島敏氏、北條町農林商工統計調査員稻葉龍治郎氏

に表彰狀並に記念品を授與し式辭の後支部長片山寛一氏(三島村長)祝辭を

述べ、中島敏氏の答辭を以つて表彰式を閉ぢ、引續き研究会に移り虎口屬から縣提出事項の趣旨につき詳細な解説をし、尙松井主事補から注意事項の説明あり、質疑應答を重ねて解散した。出席者左の如くである。(括弧内は町村名)

直井書記(谷田部町)山口書記(小張村)中島書記(板橋村)支部長片山寛一(久賀村)長野口書記(久賀村)馬場書記(三島村)荻書記(谷井田村)渡邊書記(豊村)小川書記(谷原村)古谷書記(十和村)大久保書記(福岡村)宇津野書記(眞瀬村)鯉淵助役(鳥名村)佐々木書記(旭村)石濱書記(上郷村)杉山書記(吉沼村)飯岡書記(高道祖村)海老澤書記(作岡村)松崎書記(田水山村)小笠原書記(菅間村)飯竹書記(筑波町)櫻井書記(田井村)酒寄書記(北條町)平塚書記(小田村)柳町書記(大穂村)中島書記(葛城村)成島書記(小野川村)

猿島郡支部總會

猿島郡支部では四月二十五日郡農會

樓上に支部總會を開催、縣より小倉屬出席、遠藤支部長の開會の辭に引續き本縣統計協會總裁より表彰された神大實村統計調査員羽富益藏氏に對し表彰狀の傳達式を行ひ、小倉屬より表彰狀を傳達、式辭を代讀、受賞者の答辭あり次に縣提出事項に就いて説明ありて閉會した。

北相馬郡支部總會

北相馬郡支部では四月二十七日取手町自治會館に於いて支部總會を開催、縣より小倉屬出席、午前十時半山田町村長會幹事の開會の辭に引續き、曩に本縣統計協會總裁より表彰された川原代村統計調査員木村幸四郎、内守谷村同鈴木平作兩氏に對し表彰狀を傳達し式辭の代讀、新井支部長の祝詞、受賞者代表の答辭ありて式を終り、次に縣提出事項の説明あり、山田幹事の閉會の辭を以て散會した。

出島部會研究会

新治郡出島部會統計研究会は三月八日午前九時から美並村役場で開催、公私有林野天然造林、公私有林野伐材、縣費補助並に助成金申請、統計主任會開催等に關し協議打合せをして午後二時半散會した。出席者は左の通り。

(志土庫)濱野書記(安飾)小室書記(美並)松澤書記(下大津)松澤書記

那珂郡西部統計事務研究会

三月十二日那珂郡大賀村役場に於て西部統計事務研究会を開催、縣より吉見屬が出席した。午前十時引田大賀村長の開會の挨拶あり次いで吉見屬より那珂郡西部はよく研究会を開き同一步調を以て進みつゝあるも尙一段の努力を以て統計の正確を期するやう希望し縣提出事項につき説明夫々質疑應答を重ね閉會した。出席者は左の通りである。

大宮(藤田書記)瓜連(平松書記)藤郷(青木書記)小瀬(橋本書記)野口(皆川書記)(八里)田澤書記(鹽田)岡崎書記(檜澤)小

室書記(上野)秋谷書記(山方)根本書記(壽)寺門書記(大場)小林書記(玉川)篠田書記(長倉)横山書記(大賀)引田村長、助川助役、豊田收入役、茅根書記、小室書記、大森書記

北相馬郡東部聯合調査員會

四月十三日北相馬郡布川尋常高等小學校に同郡東部聯合統計調査員會を開催、縣より小倉屬が出席した、午前十時開會、林布川町助役の開會の辭に續て小倉屬より本年度各種調査につき更に一層の努力の上良成績を收むるやう要望したる後、會議事項に依り説明をなし、了つて實地につき指導をなし散會した、出席者左の通り。

(布川町)林助役、石塚書記、調査員大貫千代松、古谷平作、香取竹次郎、河村龜吉、(川原代村)下妻書記、調査員宮本高之助、諸岡勝、飯田政吉、木村幸四郎、山崎弘、木村敏郎、海老原邦太郎、松浦岩治(文村)篠崎書記(高須村)飯岡助役(文間村)寺田書記、調査員大越忠壽、淺

野守、大野久太郎、飯塚幸三郎、川上清作、大野寅之助、高野富治

那珂郡東部統計事務研究会

三月十六日那珂郡菅谷村役場樓上に於て東部統計事務研究会を開催、縣より吉見屬が出席した。午前十時四十分平野菅谷村長の開會の挨拶に次ぎ、吉見屬より那珂郡東部方面に於ける統計事務は町村箇々に於ては優良なるものもあるも全体的に見て劣れるものあるを以て今一段と努力をなし統計の正確を圖ることに精進せられんことを望み縣提出事項につき説明夫々質疑應答後閉會した出席者は左の如し。

(湊)高田書記(平磯)岡部書記(前渡)澤田書記(中野)横須賀書記(勝田)金澤書記(川田)小澤書記(佐野)照沼書記(村松)大内書記(石神)根本書記(神崎)川又書記(額田)船橋書記(菅谷)平野村長、平野書記(五臺)海野書記(柳河)鈴木收入役(國田)高安書記(芳野)寺門書記

輕野村調査員事務研究会

四月二十一日岡田第一尋常小學校に開催され縣より高島屬が出席した、午前十時開會川村岡田村長の開催挨拶あり續いて高島屬より學事年報調製に關し報告表により詳細説明あり質疑應答をなしたる後終了したが出席者四十八名の多きに達した。

統計主任異動

(上へ新任括弧内舊)

昭和十三年四月十一日 那珂郡木崎村 中崎 義久 (小泉 幸衛門)
全 四月十三日 行方郡栗村 石橋 喜平 (石橋 金一)
全 四月十一日 筑波郡作岡村 海老澤 公平 (高橋 寛治郎)
全 四月十二日 久慈郡賀美村 豊田 亮 (助川藤次郎)學事
全 四月二十一日 鹿島郡白鳥村 山口 宗仙 (和泉 勇)人口
下河邊 精一郎 (菅谷 保)學事

鹿島郡輕野村では四月十六日同村役場に統計調査員事務研究会を開催、縣より那擔任の葎統計主事補が出席した

午前十時開會、山本村長の開辭に續いて葎主事補より統計の重要性に付述べ調査の完璧方を要望したる後縣提出會議事項に依り詳細説明の上質疑應答を重ね熱心に研究を爲し閉會した、當日の出席者左の如し。

△役場、輕部村長、保立助役、城之内書記、△調査員、山田昇、保立總平、野口弘、高安三治、野口可愛助、大槻帶刀、新堀清作、山本彦作、石津廣之助、山本啓之助、沼田松太郎、池田春吉、山本嘉重、山本信之助、和田常夫、鹿之賦徳太郎、宮澤優、小川幹造

結城郡第四支部統計事務研究会

三月十六日水海道町役場に於て開催縣より小泉屬が出席した、午前十時開會、柴沼水海道助役の開會の挨拶に續いて小泉屬より縣提出事項につき説明

農林省統計課長來縣

諏訪、高松兩村を視察

農林大臣官房統計課長津田儀三郎氏は市橋屬を伴ひ群馬縣視察の途次四月二十五日來縣、縣統計課を視察して大洗に一泊、翌

あり了つて本年度春季調査につき遺漏なき様各町村の調査準備等につき打合せを行ひ散會した、出席者左の通り。

(水海道町)柴沼助役小島書記(大花羽村)石塚助役(大生村)廣瀬書記(三妻村)谷澤書記(菅原村)小林書記(豊岡村)中島書記

關本町統計調査員會

眞壁郡關本町では四月十一日同町役場に統計調査員會を開催し縣より小泉屬が出席した、午前九時四十分開會、小川同町助役の開會の辭に續いて小泉屬より統計調査員會々議事項により説明し質疑應答を重ね散會した、出席者左の如し。

(縣)小泉屬(役場)小川助役、横塚主任書記(調査員)神戸清一郎、森市三郎、植木一也、永田幸一、小島英一、横塚喜一、角野新平、須藤支市、大和田秀雄、大木孝三郎、小川亮一、小川靜吉、松山徳一郎、栗島義三郎、石内榮吉、田村龜

稻敷郡第一部學事年報講習會

稻敷郡第一部學事年報講習會は去る

二十六日は川崎統計課長並に葎主事補の案内で鹿島郡諏訪村、高松村に於ける統計事務を詳細に視察した兩村とも當日統計調査員を招集して全課長の訓示を仰ぎ一行は全那波崎町を視察して千葉縣に向つた。

寄贈圖書

昭和十一年度 鐵道省年報
昭和十一年度 鐵道統計資料第一、二、三編
昭和十一年 第十三次農林省統計表
北海道統計第五十八號、第五十九號
昭和十一年度 造幣局長第六十三三年報書
經濟情勢(昭和十二年下半期)
いしずゑ 三月號、四月號
貸銀統計月報 昭和十三年一月
統計時報 第七十七號
浪華の鏡 三月號、四月號
昭和十一年 會社統計表
昭和十一年度 郵便貯金郵便局別狀況表
昭和十一年度 兵庫縣統計書 上、下
日本労働年鑑(昭和十二年)
主税局第六十三回統計年報書昭和十二年度
列國々勢要覽 昭和十三年
昭和十二年南統計表
日本帝國國勢一斑 第五十四回
昭和十一年千葉縣統計書 第一、五編
昭和十二年物價統計表

鐵道省
農林大臣官房統計課
北海道統計協會
造幣局
東京稅務監督局
福岡縣統計協會
商工大臣官房統計課
內閣統計局
大阪府統計協會
商工大臣官房統計課
貯金局
兵庫縣
大原社會問題研究所
大藏省主稅局
內閣統計局
農林大臣官房統計課
內務大臣官房文書課
千葉縣
商工大臣官房統計課



戰勝祈願

行方郡大和村六統生

非常時下に於ける我等統計調査員は年々行事として繼續しつゝある視察を見合せ戰勝祈願及び白衣の凱旋者慰問等銃後に於ける國民の義務奉仕も亦意義あると信じ四月七日日本村平塚村長、箕輪助役、平塚庶務主任、根本統計主任諸氏引率の下に總員二十名が役場門前より自動車に搭じ意氣揚々鹿島立をなす、けだたましい號音一聲稍動搖を來すと共に疾走を開始したのは恰も午前四時頃である其の日天氣快晴ならざるも雨降らず、暖一入加はり行旅には最良の日和たるを喜ぶ。

車中装置の電燈は光り煌々又閃々曉の暗を劈いて色澤蒼く又物凄く路砂や草木に相映えては趣更に深きを覺ゆる也。瞬間本郡牛堀の軒並稍蜜なる街路を通過牛嶋橋に到る頃は夜は全く明けはなれて右に新しき朝の霞浦の波靜かに水洋々たるもすがくし、橋下を流るゝ北利根の川は蜿蜒として宛ら長蛇の團匄する如し。此れより横利根用に沿ひ進む、西に廣茫

都に第一步を印す、煤煙濛々天日爲めに曇るの憾あり、街路樹の煤けて黒きには啞然たらざるを得ざる也、西して淺草に到り朝飯を喫す、一行淺草寺に賽し戰勝を祈る。

車内より途次下谷神社松坂屋神田驛等を左に見つゝ九段の坂路を昇り神門を通り靖國神社に參詣す。

かな

境内の櫻花恰も今を盛として燦爛たるに眼を眩す、讚嘆數刻また車中の人となる、之れより牛込區陸軍第一病院を訪ひ白衣の勇士を慰問す可く飯田橋を渡り目的地に到る、刺を通じ來意を告げ衛兵の許を得、戰傷者に對し深甚の敬意を表す、同分院第五病棟に於て本村出身者奈良崎正君に會し慰問の意を表す、同君は石黒部隊に配屬し陸軍歩兵として出征北支に轉戰偉巧を奏せしが敵彈破片を腰部に負ひ送還治療殆んど全治に至る、之れ即ち武運に恵まれ天祐豊かなる幸運者なり、同氏は病軀を提げ一行の爲めに院内各室を案内せらる。

一行は明治神宮に到る、社頭に列し、恭しく聖壽の萬歳、國家隆昌、皇戰戰勝、武運長久の熱禱を久ふし、敬虔の念に打たる。

戦ひの勝ちを祈りて大神の勿体なさに涙こぼるる

際限なき沃田を隔て、遙かに筑波の朝景色を眺むるも亦快し。

本縣境域線なる大利根川に架設する鐵橋に到る、橋畔自動車を停めしばし風景に懷れ讚賞を恣にす、橋頭碑あり、題する蘇峰先生の水郷の美天下に冠たるの辭誠に背かざるを覺ゆる徐ろに思ひは走らす蘇州江畔水郷の美も斯くやと、之より電燈未消えざる佐原の町を通過し道を吉岡街道に選ぶ、山あり畑ある間を縫ひつゝスピートを以て疾走す、道に大原女ならで村婦野娘が薪を負ひ行くに逢ふ、之れ朝餉前佐原町に薪をひさぐものを知る、白き手拭頬冠り色合各様の褌を掛け脚絆を穿つ郷土風景も亦珍らしき也、土屋を経て成田町新勝寺裡門に到る。

一行は成田山に參詣堂下に踞し、皇國隆昌皇軍戰勝武運長久の祈願をなす、同山は創立千年に該當するを以て紀念大護摩法會執行中故に堂の内外の裝飾極めて壯嚴の態益畏敬の念を深ふす、一行亦車中の人となり疾驅右に印幡沼の遠景を眺め乍ら佐倉町に到る、兵營前を過ぎ廣茫たる習志野練兵場を横斷す、時恰も事變下皇軍の猛演習の勇しさを感激しつゝ舟橋中山八幡市川等を通過す、八幡に於ける八幡不知の竹藪を左に見ては遠く黃門卿の昔事を偲びつゝ江戸川假橋を渡り東

直に道を轉じて乃木神社に賽す、尙ほ乃木邸を拜觀しては感慨無量、覺えず落涙滂沱たるを禁じ得ず。之れより皇居遙拜のため疾走參課本部前に下車し櫻田門より皇居二重橋前に至り一行整列、皇居遙拜悉しく最敬禮を行ふ。

之より上野松坂屋にて晝飯を認む、時恰も開催中なる上野山下國防博覽會に入場、我が國力の發展と國防の重要性に驚くと同時に一段國力の昂進と國防觀念を深刻に味覺す。一行は淺草を再び訪ひ夕食を攝り不夜城の光景に名残を惜みつゝ歸途に就く。

一路土浦に達する頃は九時三十分と覺ゆ、櫻川沿岸の櫻花今や満開、加ふるに無数の電燈花間を賑はし一段美觀を極む、車より下りて樹下を逍遙夜景を滿喫す、一隊の青年音楽隊曉々愛國行進曲を吹奏するは非常時下の觀櫻を思はずものあり。一行微睡の夢を乗せて本村役場門前に下車解散。意味深き一日の旅も恙かなく歸る今なほ嬉しかりけれ

グループの横顔

行方郡武田村 N H

薫風頬を撫で、赴く春の陽は燦々と櫻若葉に照り返る、退屈な記事もどうやらと我が武田村統計陣營の横顔記を縣下四千の同志に見へん。

◆
□主任 小貫三郎 長軀六尺に垂んくとし、瘦身鶴の如し、役場に燦ること二十餘年、博學達識、自他共に許す我が村の主字引である、郡内の信望を得て協會行方支部長の椅子にあり、斯道向上の爲日も尙足らぬ努力をつづける、部下調査員の指導は何時もあの發聲否元氣な聲で指導を續ける、吾々氏の人格に歸依して一糸亂れず邁進怠りなし。

□第一區、境勇 我が陣營の白眉である、その努力右に出るものなし、疑義に出會へば湯々として主任と論戦も一再でない、今回精進の甲斐あり行方支部の表彰組だ、又谿水と號して歌をもどり句をひねる。

□第二區、柳町久子 女性らしいが間違ない男性である、陽性型で大のユーモリストである。集會に君の姿が見えないと火の消えたやうだ事務は又能率家だ。

□第三區、平野貌夫 寡言朴訥就任日が浅いにも拘らず目覺しい

進境振りである。

□第四區、小鳥常之助 初老の齡にあれど、中々の元氣者である村議二期をつとめ、自治への貢献も大きい、何時もニコニコ事務に老巧練達の士である。

□第五區、鳥次榮 濃厚篤實、孜孜として精進怠りなき士である若冠よく萬事に通じて同志中の常識家だ、ゆた香と號して、俳句に於ては一方の雄者である、又スケッチの筆も運ばれ、居眠顔を寫生されて了ふ同志もある。

□第六區、出久根一也 寡言一途に斯道精進に怠りなし、大の毛筆家で、ペンを執ることは少い、短歌俳句は素人域を脱してある

□第七區、東野喜一 目下應召〇〇方面の第一線に奮闘さる、頭腦明晰、資性恬淡何事も軍人肌でハキ／＼してゐる、米生産調査で書類の提出は何時早く一番の殊勳者である。

□第八區、郡司力 同志中の先輩である、村内切つての篤農家である、農林省の米生産費調査も擔任さる、君の農家經營論は傾聴に値す。宅地下に毎年栽培される二毛作田は全く模範的だ、路行く人の足を停めさせる。

□第九區、埴則廣 筆者である、生來のスピード性は牛歩遅々として先輩諸君の殿をついて行く、下手の眞面目は同志の同情を得る。

□第一〇區 無言沈着、たゆみなく斯道精進をつづける、現原玉造、秋津に隣して未調査などでは大分煩雜をきわめる、然し君の頑張りは何事もスラ／＼と片付ける頭の持主である。



短歌

丹 四 郎 選

『春雜詠』『櫻』

(賞)

行方郡武田村 埴 草風

長くも御幸仰ぎぬ靖國の護國の花と散りしみ露に
戦塵の北支の便りなつかしみ田打の暇を讀み耽りけり
村人の數多田圃に晝餉するは努力奉仕のひとにかあらし

北相馬郡東文間村 宵 雪 迂 人

いち早く苗代小田を見廻れば朝餉の煙底く靡きぬ
大利根を経てし村のともし火のほのかに見えて霧たつらし

新治郡藤澤村 愛 村 耕 夫

戦捷に輝ける國日の本の匂ふ櫻をたゝへざらめや
日曜をたのしみにして待つほとに櫻の花は散りも初めにき

西茨城郡西山内村 森 武 夫

ぬくき雨日毎に降れば庭木瓜の蕾のふゝみ紅増にけり
散り残る櫻のものと噴水の一糸白く目にしぶくなり

霞かと思つゝ銀取るおのが身のいつか濡れて雨となり居ぬ

果てしなく續く緑の麥畑の中に目覺むるばかり咲ける菜の花

一輪の櫻の花を戦線の兵を慰問の文に添へにけり
老の身の田打ちにもいまは慣れにつゝ雨の日さへやいで、耕す(銃後)

長閑なる春の舗道を歩みたる樂しき影は未だ残りぬ
小川邊のゆるき流れによく見れば岸の雜草芽ぶき居にけり

緑敷く土手の若草ぬき出でてつくし出揃ふ風に揺れつゝ

川波の夕照り寒し土手下に酔ひつぶれ居る花見人あり
花見酒に酔ひつぶれたるひとの態に討ち死の兵を現かに見ぬ

次回課題 『初夏』 『梅雨』

次回課題 『初夏』 『梅雨』

次回課題 『初夏』 『梅雨』

次回課題 『初夏』 『梅雨』

次回課題 『初夏』 『梅雨』

次回課題 『初夏』 『梅雨』

次回課題 『初夏』 『梅雨』

次回課題 『初夏』 『梅雨』

次回課題 『初夏』 『梅雨』

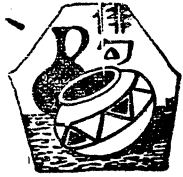
次回課題 『初夏』 『梅雨』

次回課題 『初夏』 『梅雨』

次回課題 『初夏』 『梅雨』

次回課題 『初夏』 『梅雨』

次回課題 『初夏』 『梅雨』



前田 猶 春選

『春雜詠』

水戸市 本郷統計子
 飯沼村 篠崎良雄
 苗代の水に日々来る小鳥かな
 行方郡武田村 境 谿水
 麥畑の中天に鳴く雲雀かな
 眞壁郡五所村 谷貝英二
 耕牛の悠々と田を歩みけり
 稲敷郡君原村 小松澤霞翠
 耕人にまじる女の 高話
 猿島郡逆井山 前澤藤之助
 芽柳の枝にふれけり渡し舟

五八
 水戸市袴塚 大高静香
 夜櫻やひとり淋しき懐ろ手
 稲敷郡舟島村 原 良三

空晴れて若草の野の廣さかな
 東茨城郡上野台 富田穂秋
 魚釣や芦の葉の音さらくと
 行方郡延方村 黒須一雄

嘯りや煙草のむ人鋏を杖
 北相馬郡東文間 堀越正直
 雨ぬくく蛙うるさき夜なりけり
 稲敷郡太田村 男枝則子

機の音長閑なりけり山の家
 行方郡武田村 埴 草風
 耕や利根下る帆をまのあたり
 同 同 人

讀みかけの卓の詩集やチユトリップ
 北相馬郡守谷町 長谷川 憲太郎
 古城沼けぶりて遠し春の雨
 鹿島郡中野村 高田曉香子
 夕東風や瀬戸の竹やぶさらくと

秀 逸

(賞)

筑波郡久賀村上萱場 關野 去月
 木の芽風病雜の窓押し開く
 おのがじく自慢話の夜振かな

次回俳句募集

題 『夏季雜詠』
 締切 七月五日嚴守 一人十句迄



柳 川

山中 緋 郎選

東茨城郡渡里村 小林 新人
 ひよつこに見入る子供のつぶらな瞳
 猿島郡五霞村 渡邊 利夫
 弟を背負つて駈ける雨に遭ひ

『雜詠』

大高静香
 原 良三

富田穂秋

黒須一雄

堀越正直

男枝則子

埴 草風

同 同 人

長谷川 憲太郎

高田曉香子

眞壁郡五所村 谷貝英二

行方郡大和村 六 統 生

久慈郡大子町 宮川 一 郎

眞壁郡川西村 佐藤 紫 水

水戸市 大高 静 香

那珂郡薩郷村 青柳 春 男

水戸市 本郷統計子

那珂郡中野村 川 又 静 一

次號課題 『雜詠』

宛名 茨城縣廳内統計協會
 締切 七月一日

茨城統計と廣告の 効果

『茨城統計』は縣下三百七十九ヶ市町村及び各市町村の統計調査員約四千名は勿論縣下各種團體、會社、工場等に配付し、中央各省、道府縣へも漏れなく配付するものにて廣告の効果偉大なるものがあると信じます。

◆本誌廣告料金左の通り

- 特別(一頁(表紙表裏)) 金拾五圓
- 特別(半頁(同)) 金八圓
- 普通(一頁) 金四圓
- 普通(半頁) 金貳圓
- 同一廣告を引續き二回以上おのときは一割五分、五回以上おのときは二割の割引をします。
- 廣告に寫眞挿入又は木版を要するものは其の費用を別に申受けます
- 廣告料は前納に願ひます。

茨城縣廳内

茨城縣統計協會

編輯後記

農の五月、猫の手も借りたいといふ
昨今自分の仕事の外に忙しい統計調査に活躍する四千余の調査員各位に思ひを馳せると、自ら頭の下がるのを覺える。

今月號で長い間連載された長畑統計官の耕地統計論を終りとする。各位にもさぞ参考となつたところが多かつたと思ふ。讀者各位と共に深く感謝したい。更に今月號には統計學社名譽社長横山雅男氏が大正十年十一月七日日本縣師範學校で講演した筆記を贈られ紙上一段の光彩を添へ得た事を喜ぶ。

更に那珂郡菅谷村統計調査員がわざわざ出縣して統計座談會を催した筆記を掲載出來た事は有難い。其の席に列

して考へた事であるが統計調査に就ては色々の意見もあらうし、又改良を要する点も相當あるらしい。どうかさういふ様な点は御投稿なり又は統計相談所を御利用願ひたいと思ひます。

之からいよいよ暑くもなり御忙しくもなる事でせう。讀者各位の御自愛御加餐を祈つて擱筆する。――加藤敬愛――

昭和十三年五月十三日印刷
昭和十三年五月十五日發行

(隔月一回十五日發行)

一部 金十錢

水戸市北三ノ丸茨城縣廳

發行兼 茨城縣統計協會内

編輯人 川崎末吉

水戸市南三ノ丸二七ノ二

印刷人 柴博

水戸市南三ノ丸二七ノ二

印刷所 柴印刷所

水戸市北三ノ丸 茨城縣廳内

發行所 茨城縣統計協會